

Monthly Letter

地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(平成27年度～平成31年度)
『地域創生の担い手を育み活気あるふくいを創造する5大学連携事業』
福井大学・福井県立大学・福井工業大学・仁愛大学・敦賀市立看護大学



「新しい年にあたって」 ふくいCOC+事業推進責任者 新年メッセージ

新年おめでとうございます。

平成27年10月からスタートした福井県内の4年制大学5校(新設の福井医療大学が昨年からの協力校として参加)によるCOC+事業は、今年から後半に入ります。

これまで、関係者のご尽力と福井県内の自治体・産業界、医療界などのご支援・ご協力により、当初の計画を着実に実施し、成果を積み重ねています。事業の目標値である地元就職率は、平成28年度に平成26年度比で2.6%向上しました。様々な取組みの中では、大学連携センター(Fスクエア)での地域志向科目を核とした共同開講への受講者数と他大学の単位互換の学生数は予想を大幅に超えています。

また本年2月末には、計画を1年前倒しで「ふくい地域創生士」の第1期生が認定されます。COC+事業での多彩な取組みを通して、地域の課題を発見・解決する能力を身に付けた人材の育成と地元就職向上に繋がることを願っています。

COC+事業の名称は、“Center of Community”の略称ですが、オールふくいによるCOC+は“Challenge of Collaboration”でもあると思っています。教育、研究・開発、地方創生、地域貢献など、様々な視点や分野における取組みを連携・融合させることによって、「ふくいCOC+事業」の一層の飛躍と全国に向けての発信を目指したいと思います。

本年も何卒宜しくお願い致します。



ふくいCOC+事業推進責任者 福井大学理事・副学長 岩井 善郎

学生必読

シリーズ「ふくい地域創生士」

現在「ふくい地域創生士」第1期生の認定誕生に向けて、各大学での準備が着々と進んでおり、2月27日に大学連携センター(Fスクエア)で「ふくい地域創生士」第1期生の認定証授与式が挙行されることになりました。内容については3月発行の「Monthly Letter」でご案内する予定です。

「ふくい地域創生士」認定に興味を持った1～2年生の皆さんは、今から準備をしても遅くありません！HP(<http://www.allfukui-cocp.jp/sousei/>)をチェックしてください。



↑ 左記HPリンク先 ↑

【コーディネーターからのちょっこし耳寄りなお話し】

1～3年生の皆さん、来月からの春休み、企業のインターンシップに参加してみるのはいかがでしょうか。いろいろな企業を知ること、自分自身がやりたいこと、どのような仕事が適正なのか、など将来像が見えてくるはず！いろいろな企業で就業体験できるのも学生のうちにできること。「まだまだ早い！」と思っているとあっという間に4年生になってしまいますよ。



舟木コーディネーター

12月16日福井県織協ビルにおいて開催された「高レベル放射性廃棄物(HLW)の処分問題を考えるinふくい」(福井大学主催、福井県立大学・福井工業大学・日本原子力産業協会共催)に県内大学などから学生33人が参加し、原子力発電所から出る高レベル放射性廃棄物、いわゆる「核のゴミ」の処分問題をテーマにした対話を行いました。

大学や専門分野が異なる若者が一堂に集い、ものの見方や考え方を共有し交流する場として、2008年度から、仁愛大学や福井高等専門学校も参加し、計6回にわたり実施してきました。

7回目となる今回は、まず専門家による2つの講演の後、自身の感想や意見のメモをもとに5つのグループに分かれて自由な意見交換を行い、その後、他のグループの内容を見回りコメントし、最後にそれらを受けたグループ発表によって認識の共有を図りました。

「処分施設立地のメリットをしっかりと伝えるなど明るい話題も大事」「若者が話し合える場が必要」「わかりやすい説明が必要」「研究機関や教育機関を誘致しては」「国が地域に申し入れすることで責任が明確化できるのでは」といった意見や提案が出されました。

他人事ではなく自分事として考える一つのきっかけとすべく、今後もこのような機会を設けていきたいと考えています。



講演会の様子



グループ討議の様子



グループ発表の様子

(福井大学 原子力・エネルギー安全工学専攻 川本義海先生より寄稿いただきました。)

ふくいCOC+事業の現在までの取組みについて、評価を受けました。

ふくいCOC+事業は、外部評価者による実地評価及び文部科学省による中間評価 面接評価を受けました。

9月1日に、岐阜大学理事・副学長 福土秀人先生を主査とする5人の外部評価者により、評価を受けました。今後に対する改善・指摘事項(COC+事業のより大きな広がり、地域目線での推進など)があるものの、計画通りに実施されているとの良好的な評価でした。

10月24日は、文部科学省による全国のCOC+事業を行っている責任大学42校に対する中間評価の実施に伴う面接評価を受けました。大学側からの説明後、文部科学省との質疑応答が行われ、特に「ふくい地域創生士」に関する質問が大半を占め、注目されているという想いを強くしました。評価結果については、後日公表される予定です。

以上の評価で指摘された点も踏まえ、ふくいCOC+事業をより充実させたいと考えています。



9月1日 外部評価者による実地評価

編集後記

今年もよろしくお願いたします。福井に来てから2回目の新年と寒い冬を迎えました。先日新年のあいさつで実家に帰りましたが、関東地方(太平洋側)は暖かいと感じ、北陸の冬の寒さに身体が慣れたからこそ感じたことなのかなと思いました。「慣れ」は生活や仕事の上で大事なことですが、「慣れ」ゆえに間違いなどが起きる場合があります。今年も気を引き締めて、仕事に従事していこうと思います。(折笠)

